

# ホクコーエーワン® 1キログラム粒剤

■種類名：オキサジクロメホン・テフリルトリオン粒剤  
 ■有効成分：オキサジクロメホン----- 0.80%  
                   テフリルトリオン----- 3.0%  
 ■化管法指定物質：テフリルトリオン〔第1種〕----- 3.0%

■登録番号：第22606号  
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)  
 ■登録初年：2010.02.18  
 ■性状：褐色細粒  
 ■有効年限：5年  
 ■包装：1kg×12袋、10kg×1袋

## 【特長】

- 有効成分テフリルトリオンとオキサジクロメホン配合の2成分の一発処理除草剤。
- 一年生および多年生の幅広い雑草に有効で、雑草を白化させて枯死させる。
- ノビエの発生を長期間抑える。SU 抵抗性雑草、イボクサ・クサネムなどの特殊雑草に高い効果を示す。

## 【適用内容】(2023年4月1日現在)

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ(北海道、東北) ミズガヤツリ(北海道を除く) ウリカワ ヒルムシロ セリ クログワイ(北海道を除く) オモダカ コウキヤガラ(九州) エゾノサヤマカグサ(北海道) シズイ(東北)	移植後5日～ ルビ2.5葉期 但し、移植後30日 まで	砂壤土 ～ 埴土	1kg /10a	1回	湛水散布 又は 無人ヘリコ プターによ る散布	北海道 東北、北陸
		移植後5日～ ルビ2.5葉期 但し、収穫45日前 まで	砂壤土				関東・東山・東海 の普通期及び 早期栽培地帯
		移植後5日～ ルビ3葉期 但し、収穫45日前 まで	壤土 ～ 埴土				近畿・中国・四国、 九州の普通期 及び早期栽培 地帯
		移植後5日～ ルビ3葉期 但し、移植後30日 まで	砂壤土 ～ 埴土				
直播水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヒルムシロ セリ	稲1葉期～ ルビ2.5葉期 但し、収穫45日前 まで	砂壤土 ～ 埴土				全域

オキサジクロメホンを含む農薬の総使用回数	テフリルトリオンを含む農薬の総使用回数
2回以内	2回以内

## 【効果・薬害等の注意】

- 本剤は雑草の発生前から発生初期に有効なので、ノビエの3葉期まで(北海道、東北、北陸の砂壤土～埴土、関東・東山・東海の砂壤土及び直播水稲は2.5葉期まで)に時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ミズガヤツリは3葉期まで(ホタルイの北海道、東北、北陸、近畿・中国・四国、九州、直播水稲は2葉期まで、ミズガヤツリの東北、北陸、近畿・中国・四国、九州、直播水稲は2葉期まで)、ヘラオモダカ、ウリカワ、エゾノサヤマカグサは2葉期まで(ウリカワの東北は発生始期まで)、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、クログワイ、オモダカ、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまでが本剤の散布適期である。
- オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは発生期間が長く、遅い発生のもまでは十分な効果を示さないで、オモダカは有効な前処理剤または後処理剤と組み合わせて使用し、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。
- 前処理剤との体系で使用する場合(関東・東山・東海)には、雑草の発生状況をよく観察し、時期を失しないように適期に散布すること。
- 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化及び植付け作業は丁寧に行うこと。未熟有機物を使用した場合は、特に丁寧に行うこと。

- 散布の際は水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布すること。また、極端な浅水や深水での使用は避けること。散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、入水は静かに行うこと。
- 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用を避けること。
  - ◆ 砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
  - ◆ 軟弱な苗を移植した水田
  - ◆ 極端な浅植の水田及び浮き苗の多い水田
- 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は次の注意を守ること。
  - ◆ 散布は散布機種種の散布基準に従って実施すること。
  - ◆ 散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
  - ◆ 粒剤散布装置については、事前に薬剤の物理性に合わせてメタリング開度を調整するとともに、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラ（スピナ）の回転数を低速に調整すること。
  - ◆ 散布薬剤の飛散によって他の作物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、ほ場の端から5m以上離れた位置からほ場内に散布すること。
  - ◆ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散流入しないように十分注意すること。
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合には、十分注意すること。
- 散布後に多量の雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避けること。
- 本剤を直播水稲で使用する場合、稲の根が露出する条件では、薬害を生ずるおそれがあるので注意すること。
- 本剤は、移植前に生育したミズガヤツリには効果が劣るので、他の方法で完全に防除してから使用すること。
- 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 【安全使用上の注意】

- ❖ 誤食などのないように注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 保管：直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。